
ささやかな贈り物

彌劔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ささやかな贈り物

【Nコード】

N6468D

【作者名】

彌劔

【あらすじ】

ある少年がへんぺつもない生活していたら、天使との出会いであった

(前書き)

読んでみてください

君にささやかな贈り物を送ってあげる。

僕に？

うん君に

美しい贈り物だけど、ほんのささやかな贈り物だから

その紙に願い書くだけで叶うから細やかな贈り物は何時か消え去る。

何時間立とうが何日過ごそうが細やかな贈り物はその日だけしか叶わない。

例え失わない人だろうが1日立つと互いの記憶に残らない。

僕は好きな女性出会っても例え仮に付き合い1日立つと互い他人成っちゃうのか。

悲しく切ない細やかな贈り物だね。

其でも望むなら書けば叶う。夢だろうが夢じゃないだろうが関係ない。君が好きだから。一緒に居たい。

君ってわがままだね。仕方ないね。君と一緒に居ます。

僕の願いは君と一緒に居たいそして小さい文字で君と結婚したいと書いた

そして私は天国の所に行き神に言ったらすんなり承諾した。

そして私は天使じゃなく人間として彼と一緒に居ることになった。
そして2ヶ月が立ち僕は君にプロポーズをした

「あの、君の事しか考えられなくて だから結婚してください。」

私は君に呼び出されてプロポーズをされた、そして私は

「はい。喜んで」と笑って彼に言った

彼は微笑んでいた、嬉さと喜びがいっぱいだった。

私も嬉しかった。彼と同じ気持ちいっぱいだった。

そして神様に「ありがとう」と言葉を送った。

だから、このささやかな贈り物は決して忘れてはいけなかった。
私たちは皆から祝福をもらった、私たちも皆に祝福をあげた。そ
して笑顔で生きていけると。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6468d/>

ささやかな贈り物

2010年11月4日13時45分発行